

令和7年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立晴明丘小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標 ※令和4年度当初に令和3年度までの実態を踏まえて設定

現状と課題

本校は、持続可能な社会を担う子どもを育てる推進拠点校であるユネスコスクールとして認定され10年がたつ。子どもたちが地域とつながり、世界に目を向け、様々な課題を自分自身の課題として受け止め、解決に向けての取組ができるよう支援を続けてきた。学校教育活動とSDGs(持続可能な開発目標)とを結びつけ、子どもたちは自分たちにできることの発信を続けている。ユネスコスクールとしての理念を基盤とした教育を継続してきた結果、子どもたちには、身近にある課題を自分自身の課題として捉え、自分たちにできることを実践し、発信していく力が身につきつつある。

以下は、「令和3年度全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」「大阪市学力経年調査」の結果から考察される本校の現状と課題である。

① 令和3年度全国学力・学習状況調査から見えてきた成果と課題

【各教科】

3教科ともに平均正答率は全国よりも上回っている。特に国語科では、昨年度まで研究教科として取り組んできた成果が表れた。平均無回答率も低い水準を保っており、ある程度の学力は身につけていると考えられる。しかし、領域別にみると各教科とも苦手な部分があり、**低位層の基礎学力の定着と中間層の学力を伸ばすことが課題**である。

各教科で課題がみられた領域は以下のとおりである。

【国語科】

- 話し言葉と書き言葉の違いを理解して回答を選択肢から選んだり、回答の条件を正しく理解して記述したりする問題
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題

【算数科】

- 目的に合った数の処理の仕方を考えたり、割合の仕組みを理解したりする問題
- 目的に応じて円グラフを選択して必要な情報を読み取ったり、正三角形の構成の仕方について、正しいプログラムを選んだりする問題

【理科】

- 実験に使用する器具の名前や正しい使い方、実験の基本的な方法を問う問題
- 観察などで得た結果を他者の気づきの視点で分析して解釈し、自分の考えを持ったり、結果の予想と実験の結果をもとに問題に対するまとめを検討して自分の考えを持ったりすること

低学年からの**基礎学力の積み重ね**を大切に、各学年で身につけなければならない内容を**確実に定着させることが課題**である。

【質問紙】

- 「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的に回答する児童は94%であり、自己肯定感が高まっている。また、国語や算数の学習を好きな児童は半数をこえており、「学級の友達との間で話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と感じている児童は85%である。これは、学級の係活動や委員会活動、児童会活動などを通

して、各自が達成感を感じたり頑張りを認め合ったりできる場を多く設けたり、日々の学習活動で話し合い活動を積極的に取り入れてきたりした成果であると考えます。

一方で、授業で ICT 機器を使用する回数は週 3 回以上が 27%となっており、**学習に ICT 機器が有効に活用されるには今後も工夫が必要**である。

② 令和 3 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から見えてきた成果と課題

今年度の結果を見ると、ほとんどの種目で大阪市平均を上回り、合計得点も大阪市・全国の平均を上回った。シャトルランは、男子で 7.36 ポイント、女子で 8.65 ポイント上回っており、これは一週間の総運動時間数と比例していると考えます（60 分以上男子 96.7%、女子 83.3%）。一方、**男女とも長座体前屈の記録が下回っている**。

「運動やスポーツをすることは好きですか」に肯定的に回答する児童を見ると、男子は大阪市の平均を 7.4 ポイント下回っている。また、「体育の授業が楽しい」と感じている人数も、男子のほうが少ないことがわかる。自分なりの目標をたてて運動に取り組んでいるが、**運動をすることが生活を明るくする要素になったり、運動やスポーツが大切なものだと感じたりしている児童は多くない**。

今後は、**楽しみながら運動に取り組める活動を継続し、「体育の学習が楽しい」と感じられるよう、場の設定や活動内容を工夫したい**。また、身体を動かすことが自分たちの生活を明るくすることにつながる、という意識が育つような活動を工夫しながら、体力の向上を目指したい。

③ 大阪市小学校学力経年調査から見えてきた成果と課題

【教科について】

小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点をみると、令和 3 年度 3 年生の国語科以外は 100 を超えている。平均正答率の対全市比を同一母集団で前年度と比較した結果、同じか微増している学年がほとんどであるが、6 年生の国語だけは 0.05 ポイント下がっている。学年が上がるにつれて学力の差が広がらないようにするためにも、**今後も個に応じた指導を充実していく必要がある**。

【質問紙について】

どの設問に対しても肯定的に回答する児童が多い。同一母集団を経年で見ると、学年が上がるにつれて、自分自身を見つめる目は育ちつつあるが、各教科に関する設問は肯定的な回答は減少傾向にある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を50%以上にする。
- 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末教職員アンケートにおいて「校内研修が充実していたか」の項目に肯定的に回答する教職員の割合を80%以上にする。
- 令和7年度校内調査で、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度より増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

「**大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標**」

※14項目中2以上 ※「○」

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83.6%以上にする。【令和6年度83.5%】

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【令和6年度1.02%】

○校内アンケート「学校は楽しい」に肯定的に回答する児童を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度89%】

○校内アンケート「学校や学年、学級のために進んで行動した」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度91%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「**大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標**」

※12項目中2以上 ※「○」

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83.4%以上にする。【令和6年度83.3%】

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.8%以上にする。【令和6年度80.7%】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。【令和6年度46.4%】

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.5%以上にする。

【令和6年度67.4%】

○校内アンケート「学習の内容がわかる」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度を維持する。【令和6年度94%】

○校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和6年度より増加させる。【令和6年度49.6冊/1人1月末】

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕【令和6年度4.2%】

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教員の割合を77.2%以上にする。【令和6年度77.1%】

(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない。1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない)

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の自己評価において、年度目標については概ね達成することができた。年度目標の達成に向けた指標について、各学年や担当、校務分掌、係などが創意工夫して取り組みを進めた結果である。

本校は「ユネスコスクール」として、持続可能な社会を担う児童を育成することに重点を置いた活動を展開している。重点目標である「自主性と協調性があり、自律できるこどもをはぐくむ」を実現するため、「安全・安心な教育の推進」「未来を切り開く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」のそれぞれの場面において児童が自ら課題を見つけ、解決策を考えて実践できるように教育活動を行ってきた。教職員は、「運営に関する計画」に掲げた年度目標を達成するため、取り組みに対してその都度、成果と課題を確認してきた。指標には届かない取り組みもあったが、学校が一丸となって取り組んだ結果が如実に表れていると考える。今後も児童と教職員、保護者や地域にとってより良い学校になるような取り組みを継続していきたい。

【安全・安心な教育の推進】

学校アンケート「学校は楽しい」の項目に肯定的な回答をしている児童は、全体の92%となった。これは、各学級での取り組みや児童会・委員会活動、学校行事などを通して多くの児童が達成感を味わい安心して学校生活を送ることができ、楽しさを味わうことができたからだと考える。一方で様々な家庭の事情等から、登校渋りや不登校の児童もいる。校内で情報を共有し、家庭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら解決の方策を模索した。全て改善していないため保護者や児童に寄り添い、今後も個に応じた支援を継続していく。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

学力と体力の向上に関わり、教職員が主体的に様々な取り組みを行った。図画工作科においては、児童が感性を働かせながらつくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基本的な能力を培い、豊かな情操を養えるよう、全国大会を目標に教職員が研修や研究授業などで研鑽を積んだ。その成果を発揮し、全国大会においては、各学年で創意工夫を凝らした授業を展開した。児童が自ら主体的に表現したいことを絵や形、空間を使って表したり、表現の工夫を話し合ったりするなど充実した学習を行うことができた。

体力の向上に関しては、運動委員会を中心にラジオ体操に取り組んだ。学校ホームページを利用して地域に広く情報を発信し、地域の人も参加できるラジオ体操の取り組みを放課後（毎週木曜日）に行った。取り組みが評価され、今年度は全国ラジオ体操コンクール技術部門においてエリア奨励賞を受賞することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末（ICT機器）の活用と教職員の働き方改革について取り組んできた。学習者用端末の学習中における使用割合については、大阪市の掲げる目標に近づくため、各教科において活用方法を模索した。その結果、ICTが効果的に活用され、年間使用割合は、昨年度（65.1%）よりも7%向上し72.1%となった。しかし、目標達成には至らなかった。児童は、学習者用端末の使い方になれ、CANVAを使ってプレゼンテーションを行ったり、デジタルドリルを活用して学習の振り返りをしたりすることができるようになってきている。教職員の働き方改革については、会議の精選や「ゆとりの日」の設定などを行っている。また、学校業務を見直すことで一部授業時間数を削減し、行事の実施時期の変更や調整を行った。

大阪市立清明丘小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83.6%以上にする。 【令和6年度83.5%、令和7年度82.8%】</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 【令和6年度1.02%、令和7年度0.73%】</p> <p>○校内アンケート「学校は楽しい」に肯定的に回答する児童を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度89%、令和7年度92%】</p> <p>○校内アンケート「学校や学年、学級のために進んで行動した」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度91%、令和7年度89%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(1) 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しい」と誰もが思えるように、日々の学校生活が充実するよう工夫する。 ・きまりを守り、いじめを許さない風土づくりに努める。 ・防災・減災教育を推進する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83.6%以上にする。【令和6年度83.5%】 ・心の天気は毎日、いじめアンケートは学期に1回以上実施する。 ・学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 ・避難訓練を計画的に行い、発達段階に応じた防災・減災教育を実施する。 	
<p>取組内容②【(2) 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会・委員会活動において、ユネスコスクールとしての活動を充実させる。 ・互いに認め合い協働できる集団を育成する。 ・発達段階に応じて自尊感情を高める取り組みやキャリア教育を計画的に行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「学校は楽しい」に肯定的に回答する児童を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度89%】 ・校内アンケート「学校や学年、学級のために進んで行動した」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度以上を維持する。【令和6年度91%】 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は、82.8%で昨年度と同等程度となった。【令和6年度 83.5%】

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は、0.73%となり前年度より改善した。

【令和6年度 1.02%】

○校内アンケート「学校は楽しい」に肯定的に回答する児童の割合は92%で目標を達成した。

【令和6年度 89%】

○校内アンケート「学校や学年、学級のために進んで行動した」に肯定的に回答する児童の割合は89%となり、前年度と同等程度を維持した。【令和6年度 91%】

取組内容①【(1) 安全・安心な教育環境の実現】

・いじめ(いのち)について考える日を設定し、学年の実態に応じた取組を実施したことで、いじめは絶対にいけないことであるということを再確認することができた。また、年度当初の予定通りに「いじめアンケート」を実施したことで、早急にいじめの実態を把握して解消することができた。また、職員朝会や生活指導部会などで気になる児童の様子を共有し合ったことで、「いじめアンケート」のない時期でも、いじめを解消することにつながった。

・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は、0.73%となり前年度より減少した。これは、昨年度と比較して不登校児童数が減少したためであるが、本校において、登校はするものの学級に入りづらい児童や保健室登校を希望する児童が一定数おり、今後の対策が必要である。

・心の天気(1)の1学期の実施状況の月平均は46.3%であったが、学級や学年でどのように心の天気をするように促しているのかを共有したことで、2学期の平均は57.64%と大きく向上した。中でも、12月は64%とこれまでで一番の実施状況となった。

・年度当初の予定通り、避難訓練を実施した。授業中だけではなく、業間に地震がおきた場合のことを想定して実施することで、様々なシチュエーションでの避難の仕方を身に付けることができた。

取組内容②【(2) 豊かな心の育成】

・ユネスコ委員会を中心に、他の委員会とも連携を取りながら、あいさつ週間や安全歩行週間、ユニクロと連携して行った子ども服回収、書き損じはがきの回収など、1年間を通してユネスコスクールとしての様々な活動に取り組むことができた。また、児童朝会でユネスコ委員会が生活目標を伝える際に、その目標がSDGsのどの項目に関連しているのか知れたことで、低学年児童はSDGsに興味をもち、高学年児童はSDGsに対する理解を深めることができた。

・学年の実態に応じて、各学級・各学年でSSTや自尊感情を高める取組を行った。また、

日々の学校生活の中で、友だちと認め合うことを通して、自分や友だちを大切にしようという思いを育むことができた。

次年度への改善点

・今後も学級・学年だけではなく、職員朝会や生活指導部会などを通して校内で丁寧に情報共有を行っていくことで、いじめを迅速に発見し、解消することができるようにしていく。また、心の天気の実施状況も向上し続けているため、「いじめアンケート」とともに、いじめ早期発見のための手立てとして活用を進めていく。避難訓練については、実施回数、内容を吟味しながら継続して取り組みを進めていく。

・ユネスコ委員会を中心に、健康委員会と連携して安全歩行週間の呼びかけを行うなど、いくつかの委員会と連携して様々な活動に取り組むことができた。来年度からは、他の委員会ともさらに連携を深め、ユネスコスクールとしての活動を広げていく。また、SDG s に対する理解を深めるため、今年度同様に、生活目標や各委員会の活動を SDG s 17 の目標につなげるようにしていく。

・各学級、各学年で行っている、SSTや自尊感情を高める取り組みの中で効果があるものを共有することで、取り組みの幅を広げることができるようにしていく。

大阪市立清明丘小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況														
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <table border="1"> <tr> <td>令和7年度結果</td> <td>令和6年度結果</td> </tr> <tr> <td>4年 国語 0.97 ▼</td> <td>国語 1.04(3年生時)</td> </tr> <tr> <td>算数 1.06 ▼</td> <td>算数 1.07(3年生時)</td> </tr> <tr> <td>5年 国語 1.01 ▼</td> <td>国語 0.96(4年生時)</td> </tr> <tr> <td>算数 1.03 △</td> <td>算数 0.98(4年生時)</td> </tr> <tr> <td>6年 国語 1.02 ▼</td> <td>国語 1.09(5年生時)</td> </tr> <tr> <td>算数 1.01 ▼</td> <td>算数 1.17(5年生時)</td> </tr> </table> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83.4%以上にする。【令和6年度83.3%、令和7年度83.1%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80.8%以上にする。【令和6年度80.7%、令和7年度78.4%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。【令和6年度46.4%、令和7年度45.3%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.5%以上にする。【令和6年度67.4%、令和7年度68.6%】</p> <p>○校内アンケート「学習の内容がわかる」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度を維持する。【令和6年度94%、令和7年度90%】</p> <p>○校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和6年度より増加させる。【令和6年度49.6冊/1人1月末、令和7年度47冊/1人】</p> <p>○校内アンケート「学級の友達と話し合う活動は自分の考えを深めるのに役立ちました。」に最も肯定的に回答する児童を54.1%以上にする。【令和6年度54%、令和7年度44%】</p>	令和7年度結果	令和6年度結果	4年 国語 0.97 ▼	国語 1.04(3年生時)	算数 1.06 ▼	算数 1.07(3年生時)	5年 国語 1.01 ▼	国語 0.96(4年生時)	算数 1.03 △	算数 0.98(4年生時)	6年 国語 1.02 ▼	国語 1.09(5年生時)	算数 1.01 ▼	算数 1.17(5年生時)	B
令和7年度結果	令和6年度結果														
4年 国語 0.97 ▼	国語 1.04(3年生時)														
算数 1.06 ▼	算数 1.07(3年生時)														
5年 国語 1.01 ▼	国語 0.96(4年生時)														
算数 1.03 △	算数 0.98(4年生時)														
6年 国語 1.02 ▼	国語 1.09(5年生時)														
算数 1.01 ▼	算数 1.17(5年生時)														

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(3) 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を充実させ、教員の指導力を高める取り組みを計画的に実施する。 ・学習環境を整え、わかる授業を実現するためにユニバーサルデザインを取り入れる。 ・個に応じた指導が充実するよう、学習形態を工夫する。 ・学び方がわかる授業のありかたを工夫する。 ・考えを深めたり広めたりするための話し合い活動を取り入れる。 ・年間指導計画に沿って6年間を見通した学習活動を進める。 ・課題に対して自分の考えをもち、適切に表現できるような活動を取り入れる。 ・実験や実習・観察等、体験的な学習の機会を多く取り入れる。 ・読書活動を充実させる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート「学習の内容がわかる」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度を維持する。【令和6年度 94%】 ・校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和6年度より増加させる。【令和6年度 49.6冊/1人1月末】 ・校内アンケート「学級の友達と話し合う活動は自分の考えを深めるのに役立ちました。」に最も肯定的に回答する児童を54.1%以上にする。【令和6年度 54%】 	B
<p>取組内容②【(4) 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の動きや働きに注意を向けながら、ラジオ体操に取り組む。 ・運動委員会を中心に、楽しく体を動かすことができるような活動を工夫して実践する。 ・体育科の学習では、各学年の実態に合わせた学習内容で、場の設定などを工夫する。 ・発達段階に合わせた食に関する指導を行い、食事と体や心の成長の関係について考えられるようにする。 ・養護教諭による保健指導や各学級での保健学習を通して、自分の体に関心を持ち、心と体の健康について考えられるようにする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67.5%以上にする。【令和6年度 67.4%】 ・校内アンケート「自分の身体と健康について考えている」に肯定的に回答する児童の割合を前年度と同等程度を維持する。【令和6年度 89%】 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○校内アンケート「学習の内容がわかる」に肯定的に回答する児童の割合は90%となり、前年度より若干減少した。【令和6年度94%】

○校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数は47冊であり、前年度より若干減少した。【令和6年度49.6冊/1人1月末】

○校内アンケート「学級の友達と話し合う活動は自分の考えを深めるのに役立ちました。」に最も肯定的に回答する児童の割合は、44%となり、前年度より10%減少した。【令和6年度54%】

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は68.6%で目標を達成した。【令和6年度67.4%】

○校内アンケート「自分の身体と健康について考えている」に肯定的に回答する児童の割合は91%で目標を達成した。【令和6年度89%、令和7年度91%】

取組内容①【(3) 誰一人取り残さない学力の向上】

・校内研究（図画工作科）は、充実したものになっており、年度の早期に実施することで、教員一人ひとりの授業力向上が図れた。また、校内研修として国語科や生活・総合科、ICTの活用法など教員の指導力を高める取り組みを計画的に実施した。

・個に応じた指導をするための学習形態の工夫は、一人学び・班学習・全体交流など、クラス内で工夫した。また、デジタルドリル「navima」などを活用した。一方で、習熟度別学習がなくなったことにより、個に応じた児童の実施が難しくなっていると感じた。

・清明丘スタンダードを年度当初に教員間で共有し、学習環境を整えた。教室の整理整頓や学習に向かう姿勢、板書の書き方など、誰もがわかりやすいユニバーサルデザインを取り入れた。より浸透させるためには、学期に1度振り返るようにするとよい。

・年間指導計画に沿って系統的に6年間を見通した学習活動を進めた。特に今年度は、図画工作科の年間指導計画を確認し、各領域の学習内容を計画的に実施することができた。

・学習課題に対して、予想を立て、ノート等に記入し、結果と比較することで自分の考えを深める活動を行った。

・実験・体験的な学習について、授業内でできるだけ多くの実験や観察等を取り入れる工夫を行っているが、体験的学習については、教員や児童の負担軽減のため出前授業の削減を行い、見直しを行った。

・読書活動の充実のため、毎週一回読書タイムを実施した。また、月に1回、ボランティアの保護者や地域の方が児童に読み聞かせを行った。年に1度読書週間を実施し、図書委員を中心に、ビブリオバトルを行い、読みたい本を紹介する活動を通して、児童の読書活動が活発になるようにした。

【取組内容②】

・運動委員会を中心に子どもたちが、ラジオ体操や運動が好きになるような体育的行事の年間計画を立て積極的に取り組んだ。今年度もラジオ体操コンクールに全学年各学級が技術部門に応募し、運動委員会としても取り組み部門に応募した。技術部門においては、エリア奨励賞を

受賞した。

- ・体育科の学習では、体力向上を目指して計画單元ごとに場の設定を工夫したり、児童の言語活動が活発になるような工夫をしたりした。
- ・栄養教諭が各学年で食に関する授業を行い、食事と体や心の成長の関係について考えられるようにした。今年度も昨年度と同様に適宜栄養指導を行った。
- ・発育測定及び検診の際に保健指導を適宜行った。

次年度への改善点

- ・今年度は研修会よりも、図画工作科の研究に力を入れて、全国大会などへの取り組みも行ってきた。次年度以降は研究教科の変更も視野に入れているので、様々な教科の研修を取り入れたり、講師を招聘したりし、基礎的な教科の指導力を底上げしたい。
- ・図画工作科の年間計画作成した、また、おすすめの題材をファイルにて保存しているので、次年度以降も活用し計画的に学習を進める。
- ・実験・体験的な学習について、出前授業や社会見学などの行事は、見直し段階であるため、次年度からも調整が必要である。
- ・校内アンケートにおいて「学習の内容がわかる」「学級の友達と話し合う活動」に関わる肯定的回答の割合が減少した。昨年度より、図画工作科の指導に力を入れ授業研究を行ってきたことで、児童が協働的に学習を行う様子を目の当たりにしてきたため、この結果には驚いている。児童の意識として国語や算数といった教科をもとに回答したのではないかと考えられる。今年度の研究成果を生かし、次年度も友達と話し合う協働的な学びに関する工夫をしていきたい。
- ・健康委員会から全校児童に向けてハンカチとティッシュの携帯を周知することはできていたが、持ってきていない児童が一定数おり、徹底することができていなかった。
- ・保健の授業を、体育館の使用都合等により、実施する時期に偏りがあったので、年度当初にできれば計画を立てて行っていく必要がある。
- ・体育科で実施した、単元のカードなどを、次年度に引き継げるように、置き場を設置していくとよい。

(様式例 2)

大阪市立清明丘小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕【令和 6 年度 4.2%、令和 7 年度 6.9%】</p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教員の割合を 77.2%以上にする。 (1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない。1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えない)【令和 6 年度 77.1%、令和 7 年度 83.3%】</p> <p>○ゆとりの日の設定を週 1 回以上にする。</p> <p>○学校閉庁日について、夏季休業中は 4 日、冬季休業中は 3 日以上設定する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【(5) 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション)】</p> <ul style="list-style-type: none">・年間計画に沿ってタブレットを活用する。・タブレットの使い方のきまりを守って、学習活動に活用できるよう支援する。・学習活動に効果的な ICT 機器の活用について、共通理解を図るために校内研修を実施する。・タブレットを活用した個別学習を実施する。・タブレットを活用した協同的な学習を実施する。・年間計画に沿って情報モラル教育を実施する。	B
<p>指標</p> <p>・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕【令和 6 年度 4.2%】</p>	
<p>取組内容②【(6) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・報告・連絡・相談を確実に実施し、働き甲斐のある職場の構築に努める。・メンター研修を充実させ、ベテランと若手が中堅教員を仲介してつながりあえる、風通しの良い職場を作るよう心掛け、教員の資質を向上させる。・ICT 機器を活用し、校務の簡略化を行う。・学校行事や会議等を見直し、教職員や児童への負担を軽減する工夫をする。	B

<p>指標</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を77.2%以上にする。【令和6年度77.1%】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の割合は、年間授業日の6.9%となり目標に達しなかった。【令和6年度4.2%】</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教員の割合は83.3%となり、目標を達成した。</p> <p>（1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない。1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない）【令和6年度77.1%】</p> <p>○ゆとりの日を週1回以上設定した。</p> <p>○学校閉庁日について、夏季休業中は4日、冬季休業中3日以上設定した。</p> <p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気は、毎日取り組むようにしているが、学級により実施頻度に違いが見られる。『児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。』の目標は、達成はできていない。学習者用の端末利用は、学年や教科の単元によっても活用がさまざまであるが、心の天気は、今後も継続して入力していく。一方で、学習者用端末の月間平均使用割合（4月から1月）については、昨年度の割合（65.1%）より向上し71.7%となった。 ・年度当初にタブレットの使い方の決まりを児童に知らせ、学年の発達段階に応じた指導を行った。 ・学習活動に効果的なICT機器の活用については、定期的にICT担当が中心になってICT研修会を行っている。canvaやchatGTPなどの新しいツールの活用方法についての校内研修会を必要に応じて実施した。 ・年間計画に沿って、学年の実態に応じた情報モラル教育を行った。 ・個別・協働的な学習になるよう学習者用端末を積極的に活用しているが、年間計画に沿っているかは定期的に見直す必要がある。 ・学年の実態に応じて学習者用端末を使った協働的な学習や個別学習をしたことにより、児童の授業日におけるICT活用率は、前年度（4月から12月）の割合と比べると6.5%向上し、72.1%となった。（前年度65.1%）大阪市が目標として掲げる全児童数のICT使用率80%以上の日を授業日数の50%以上にする目標は、6.9%に留まり達成できなかった。 <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年会などを通して、各学級の学級経営状況を報告することを通して、学年内の生活指導事案の解決や授業計画の打ち合わせをする環境作りができていた。 ・話しやすい開かれた職場づくりに管理職が中心となって取り組んだことで、報告・連絡・相談がしやすい環境が作られていた。 ・月に1回程度メンター研修を実施したことで、若手の授業力の向上につながった。また、メンター研修にグランドメンター制度を取り入れたことによって、指導経験豊富な教員と若手教 	

員とのつながりができてきた。

- ・行事や会議などの見直しを行ったことで、教員や児童への負担が軽減されている。特に高学年を中心に社会見学などの学校行事の見直しを行った。
- ・文書の校正に chatGTP などの AI を使用することで、教員の負担軽減につながった。
- ・教員の勤務時間に関する割合（4月から12月）の内、現在基準1を満たす割合は、84%となり指標の数値を上回った。
- ・ゆとりの日を週1回設定した。
- ・学校閉庁日は、夏季休業と冬季休業中に4日ずつ設定した。

次年度への改善点

- ・タブレットの使用頻度は、学年や単元によってさまざまであった。
- ・タブレット端末の入れ替えにより8割に届かない日でも、使用の割合が目標値に近づいている。
- ・タブレット端末の入れ替えにより、全校児童の家庭での持ち帰りが基本となるため、家庭での使い方・持ち出しなどの決まり・ルールを明確化し指導を徹底する必要がある。また、それに伴い情報モラル教育も強化していく必要がある。
- ・情報モラル教育は各学期に行っているが、SNSを介する生活指導も起こっているため、継続して指導していく。

- ・学年会やメンター研修、運営3部会等、それぞれの会で話し合い活動が活発に行われた。
- ・今年度メンター研修で、グランドメンターを行った。来年度も経験の少ない教員が中堅・ベテラン教員とのつながりを今年度以上にもてるよう工夫していく。